

# 防潮堤を勉強する会

## 気仙沼市長への質問(下)

「防潮堤の全体像が見えにくい。市民に見える形をとつてほしい。

行政は中途半端なものをするのをいやがるが、なるべく資料は出した。説明会資料を市のホームページで出すことも可能だ。

「総合的な津波防災対策の計画はいつ、どのような形で示されるのか。

地域防災計画の見直しに向か、今は資料整理と災害対応の検証を行っている。

「市としての防潮堤のスケジュールは」

東北大学による避難シミュレーションも実施する。1月に検討会議を開き、自治会や自主防災組織も参加してもらつ。来年度いっぱいかけ

て改定し、避難道整備や津波避難ビル指定も並行して進め

いま計画として認められているのは、復興に向けて地域をつなぐ道路で、本當の意味での避難道はこれから予算をとつていく。大切な道路だととも、国との感触からは被災していないと厳しい雰囲気はあるが、市として粘つてい。

新設分は、早めにしないと予算の保証いく。県と国も同じだ。

想定される中で各省庁の仕事を早めなければならず、南海トラフも

ものであれば、負の遺産になると考へる

「海と生きる」とは、海の可能性に期待して、海を愛しつつ、その怖さに覚悟と備えを持って生き

復興計画の副題とした「海と生きる」は、全ての気仙沼人のアイデンティティとして誇るべきものだ。その市民の気持ちに答えて、将来世代にわたって生命と財産を守つてい

がない。一生懸命急ぐが、少しかかるかもしれない。県分の港復旧はすべて発注してある。市の漁港は年度内に8港発注するが、6港は入札が不調だったため、まとめて発注することと必ずスタートさせたい。時間がかかる予算など不透明な

キはかけらない。政府が采配し、優先度分けして少しならす必要があるものの、市は全国の自治体から人まで借りてお

べきではない。

「陸こう(防潮堤ゲート)」の造り方、側溝からの逆流対策は。

陸こうは安全のためになるべく造りたくなりが、道路で防潮堤を乗り越えるタ

## A 「海と生きる」とは?

財源の負担になるが仮復旧で対応する。

「防潮堤を一氣に造ると、人手不足や資材高騰で民間の復旧が遅れるのではないか。とても大きな問題だが、南海トラフも

かない。そのとき、すべて浮上式になる方法を模索するし

、「海と生きる」とは、自分を守り、家族を守り、他人に迷惑をかけないようにする。

づけた上で、位置や形状でライフジャケットのように進化

してきた消防団に迷惑をかけないようにする。

真に海に生きる者は、自分を守り、家族を守り、他人に迷惑をかけない心構え

、「市長が考える「海と生きる」とは、海の可能性に期待して、海を愛しつつ、その怖さに覚悟と備えを持って生き

復興計画の副題とした「海と生きる」は、全ての気仙沼人のアイデンティティとして誇るべきものだ。その市民の気持ちに答えて、将来世代にわたって生命と財産を守つてい

2012年  
10月28日付

三陸新報

3面